

飯島町誌 上巻 目次

発刊のことば

飯島町誌編纂刊行委員会長・飯島町長 早稲田吉次

発刊に当たって

飯島町誌編纂刊行委員会事務局長・飯島町教育長 幸村邦彦

例言

自然

第一章 総説

第一章 総説	三
第一節 位置と面積	三
一 位置・境域	三
二 面積	四
第二節 自然の概観	四
一 地形	四
二 生物	六

1	植物	六
2	動物	七
三	陸水	七
四	気象	八
	第二章 地形地質	一
	第一節 概 要—飯島町の自然とは—	一
	第二節 地形地質の概要—飯島町の成り立ち—	四
一	地形地質の区分	四
二	木曾山脈地域	五
三	平たん部地域	七
四	伊那山脈地域	九
	第三節 平たん部の地形・地質の概観—基本的な見方—	一〇
一	扇状地の特徴	一〇
二	扇状地と段丘との関係	三
三	段丘と断層との関係	五
四	段丘や扇状地を造る地層	六
	第四節 飯島のテフラについて—自然史解読の鍵—	六

一	伊那谷のテフラの概要	二六
二	テフラがどのように役立つか	三〇
三	飯島町のテフラ	三三
1	地形面を被覆しているテフラ (I)	三三
	— 標準模式地 久根平のテフラ層序の説明 —	
2	地形面を被覆しているテフラ (II)	四〇
	— 旧石器出土地針ヶ平遺跡のテフラ層序 —	
3	れき層中に挟まれているテフラ	四四
4	年代の手掛かりとなる上伊那南部のテフラ	四六
	扇状地と段丘について — 扇状地段丘とは —	四六
一	飯島町における地形面の区分	四六
1	地形面区分の基本事項	四六
2	与田切川扇状地の地形面	五二
	針ヶ平面と赤坂面 鳥居原面 本郷面 本郷下位面 本郷最下位面 本郷第六面	
	南街道面 高遠原面	
3	中田切川扇状地の地形面	五七
	赤坂面・高尾面 辻沢面と鳥居原面 南田切面 追引面 南割面 北河原面 岩間原面	
二	地形面の発達過程	六〇

1	赤坂面の時代〔赤坂期〕	六〇
2	辻沢面の時代	六〇
3	鳥居原面の時代〔鳥居原期〕	六二
4	本郷面から南割面の時代〔扇状地の開析期〕	六二
	第六節 扇状地を造るれき層―土石流が造り上げた扇状地―	六三
一	れき層の分け方と調べ方	六三
1	本流系れき層―古い時代の天竜川によるれき層	六四
2	支流系れき層―田切れき層・鳥居原れき層	六五
3	れきの並び方―インブ리케이션	六六
4	れきの大きさ	六六
5	円磨度	六六
6	風化度	六六
	二 本流系れき層	六六
1	本流系れき層の古流向	六九
2	石曾根東端部の六一〇・一m三角点、郷沢川に面する露頭	七〇
3	県道飯島停車場日曾利線で見られる本流系れき層	七〇
4	鳥居原扇状地東南端で見られる本流系れき層	七〇
5	与田切川左岸、鳥居原大露頭の天竜川合流点近傍	七〇

6	本流系れき層が現れているその他の場所……………	七一
三	田切れき層と鳥居原れき層……………	七二
1	与田切川のがけで見られる田切れき層と鳥居原れき層……………	七三
2	生活排水汚泥処理場の段丘崖（本郷下位面）の田切れき層……………	七六
3	旧道与田切橋上の竹林の下で見られる豊岡軽石……………	七七
4	広域農道与田切橋での田切れき層……………	七六
5	子生沢の田切れき層……………	七九
6	針ヶ平の前沢川に面するがけの田切れき層……………	七九
7	郷沢川で見られる田切れき層……………	七九
8	中田切川で見られる田切れき層と鳥居原れき層……………	八〇
9	主な段丘れき層……………	八一
第七節	活断層について—現地形の仕上げをしているもの—……………	八三
一	活断層によつてできた地形—田切断層の発見—……………	八四
1	段丘崖とされていたがけの上下で尾根やくぼ地がつながっていない……………	八四
2	扇状地を掘り込んである谷の中がけが続いている……………	八五
二	田切断層の断層露頭……………	八七
1	田切断層と露頭の位置……………	八七
2	露頭の全体説明……………	八八

3	断層面の観察	六九
4	断層のつき方を考察する	七〇
三	田切断層の分布	九一
1	中田切川から与田切川までの田切断層	九一
2	与田切川以南の田切断層	九三
四	田切断層は盆地中央部を短縮させている	九四
五	木曾山脈山ろく部の断層	九五
1	伊那谷における山地と盆地の対立	九五
2	山ろく断層の模式地、千人塚	九六
3	岩間断層の断層露頭	九七
4	岩間断層が造る断層地形	九八
5	高遠原方面の山ろく断層	一〇〇
六	断層変位量について	一〇一
1	田切断層の変位量	一〇一
2	岩間断層の変位量	一〇三
七	山ろく部山地内を通る山ろく断層群	一〇三
1	辰巳ヶ沢断層	一〇三
2	南日向沢断層	一〇四

八 中央アルプス山地内を通る代表的な断層……………一〇五

1 山地内の断層について……………一〇五

2 マセナギ断層……………一〇六

第八節 氷河時代を探る—気候変動は何をもたらしたか—……………一〇六

一 摺鉢窪カールと盆地底とが結び付く……………一〇八

二 南駒ヶ岳のカール……………一〇九

三 旧期氷河地形の存在……………一一一

四 シオジ平周辺の堆積地形……………一一三

五 与田切川中流部の段丘地形……………一一四

六 岩塔について……………一一五

七 氷期と盆地部の扇状地地形……………一二六

第九節 飯島町を造る基盤岩について—古い時代の岩石—……………一二七

一 伊那谷の地質学的な位置……………一二七

二 伊那谷とその周辺地域の地質概要……………一二八

三 飯島町を中心とした地質概要……………一三〇

第十節 花こう岩や変成岩—飯島町の土台を作る—……………一三三

一 領家変成岩と領家変成作用……………一三三

二 陣馬形山周辺の変成岩……………一三三

三	木曾山脈中腹帯の変成岩	三三
四	花こう岩類について	三四
五	竜東地域の花こう岩	三五
六	木曾山脈山ろく部から低山帯の花こう岩	三七
七	木曾山脈亜高山帯から山頂部の花こう岩	三八
第十一節	山と盆地の生い立ち—飯島町から見た伊那谷の自然史—	三〇
一	南駒ヶ岳に登って	三〇
二	山が先か、川が先か	三一
三	山地の上昇と扇状地の形成	三三
四	断層時代に入る	三三
五	山と盆地の完成	三五
	第三章 植物	三七
	第一節 概説	三七
	第二節 植生	三八
	一 低山帯の植物	三八
	1 アカマツ林	三八
	2 スギ・ヒノキ・カラマツ人工林	四一

3	路傍の植物	一八三
2	畑地の植物	一八一
1	水田の植物	一七九
四	農耕地帯の植物	一七九
5	砂れき地	一七七
4	お花畑	一七三
3	ハイマツ林	一七一
2	ダケカンバ林	一六六
1	亜高山の針葉樹林	一六四
三	高山及び亜高山の植物	一六四
2	河原の植物	一六一
1	湖沼の植物	一五九
二	水辺の植物	一五九
7	その他の樹木	一五五
6	竹林	一五三
5	モミの林	一五〇
4	シラカバ林	一四九
3	ミズナラ林・コナラ林	一四四

4	空き地の植物	一八九
第三節	特別地区の植物	一九三
一	シオシ平の植物	一九三
二	千人塚の植物	一九九
第四節	帰化植物	二〇〇
第五節	キノコ	二〇六
第四章	動物	二二三
第一節	飯島町の動物相の概要	二二三
第二節	中央アルプス一帯の動物たち	二四四
一	稜線上のけもの	二四四
	カモシカ	テン
二	お花畑を舞うチョウーベニヒカゲとクモマベニヒカゲ	二七七
三	山ろくのけもの	二八九
	クマ	イノシシ
		サル
第三節	段丘崖の動物たち	三三五
一	人里のけもの	三三五
	タヌキ	キツネ
		リス

二	石のすき間に隠れる——トカゲ・ヘビの仲間——	三三
三	樹液に集まる昆虫	三四
四	千人塚の鳥	三五
第四節	やみの中の動物たち	三八
一	暗やみを滑空	三八
	ムササビ　コウモリ	
二	夏の夜の風物詩——ホタルの仲間——	四一
三	初夏の夜の合唱——カエルの仲間——	四三
四	秋を告げる虫	四五
第五節	河川・湖沼の動物	四八
一	産卵は水の中——トンボの仲間——	四八
二	天竜川の鳥	四八
	ヤマセミ　カワセミ　セキレイの仲間　シギ・チドリの仲間　カモの仲間　サギの仲間	
三	天竜川の魚	五五
四	清流に生きる——サワガニ——	五六
五	溪流にすむ	五七
第六節	人間生活とかかわった動物たち	五九

一	飯島町で一番多いほ乳類—ネズミの仲間—	二五九
二	地中生活者—モグラの仲間—	二六一
三	果樹園に鳴く—セミの仲間—	二六二
四	人里の鳥	二六四
	スズメ	
	ムクドリ	
	カラス	
	ツバメ・イワツバメ	
	陸水・気象境・写真と図	二七五
	第五章 陸水	二八五
	第一節 飯島町陸水の概況	二八五
一	陸水とは	二八五
二	飯島町の河川の概況	二八六
三	飯島町の地下水の概況	二九〇
四	飯島町の湖沼の概況	二九一
	第二節 飯島町の河川	二九一
一	主な河川	二九一
1	天竜川	二九一
2	中田切川	二九三
3	郷沢川	二九四

4	与田切川	二九五
5	前沢川	二九六
二	河川の水質	二九七
1	天竜川の水質	二九七
	上伊那四地点の比較	分析項目の変化と傾向
		水質の流程変化
2	町内各河川の水質	三〇七
	天竜川との比較	各河川の水質の特徴
三	河川の汚染	三一
1	汚染の実態	三一
2	環境基準と汚染状況	三三
3	水生生物	三六
第三節	飯島町の地下水	三七
一	地下水の水質	三七
1	pHとRpH	三〇
2	電導度	三三
3	アルカリ度	三四
4	酸度	三四
5	塩化物イオン	三五

6	ナトリウムイオン	三六
7	カリウムイオン	三七
8	カルシウムイオン	三八
9	マグネシウムイオン	三九
10	COD (化学的酸素消費量)	三二
11	その他の物質	三三
二	水温	三三
第四節	飯島町の湖沼	三五
一	湖沼とは	三五
二	温水ため池の働き	三七
三	湖沼の汚染	三七
第六章	気象	三九
第一節	概説	三九
一	気象概観	三九
	はじめに	概観
二	四季の移り変わり	三九
	春	三九
	夏	三九
	秋	三九
	冬	三九

第二節	気象の諸要素……………	三〇八
一	气温……………	三〇八
	概観 年変化 日変化と日較差 町内での気温観測 最近における冬の気温推移……………	
二	降水……………	三五五
	概観 町内の雨量観測から 雪 雷雨 その他……………	
三	風向と風力……………	三六四
	概観 統計でみる飯島町の風 季節の風 他地域と比べた飯島町の風 飯島町の地形と局地風……………	
四	日照時間……………	三七〇
五	湿度……………	三七二
第三節	山岳地帯の気象……………	三七二
	気温 降水 風向・風力 雲 天気 日照 積雪 陣馬形山……………	
第四節	気象と生活……………	三七六
一	気象と生活……………	三七六
	日照り 集中豪雨 低温 かみ雪(どか雪) 季節病(花粉症)……………	
二	農業と気象……………	三八二
	気温と農業 降水量と農業 温度・湿度と病虫害の発生 日照と農業 気象と農作物の作柄の関係……………	

三	氣象災害	三六八
1	五八災害	三六八
	氣象概況	三六八
	水害事例	三六八
2	三六災害	三九一
	氣象概況	三九一
	災害概況	三九一
	災害事例	三九一
3	大正十二年水害	三九四
	山の神沢・田の洞沢の水害	三九四
4	その他の災害	三九五
	晩霜の害	三九五
	雹害	三九五
	地震	三九五
四	天氣に関することわざ	三九八
1	天氣に関することわざ	三九八
	氣象現象に關係したもの	三九八
	植物に関するもの	三九八
	動物に関するもの	三九八
	生活等に関するもの	三九八
	農事に関するもの	三九八
	郷土的なもの	三九八
	迷信的と思われるもの	三九八
2	ことわざの解説	四〇四
五	その他	四〇七
	初霜・終霜	四〇七
	中央自動車道の霧	四〇七
	自然資料	四一一
	地形地質(用語解説)	四一一

二 動物	四一六
三 気象	四二六
「自然」参考文献	四四四
原始・古代	
原始・古代境写真	四四九
原始	
第一章 原始・古代と考古学	四五九
第一節 遺跡が語る歴史	四五九
一 発掘調査とは何か	四五九
二 文化財保護と記録保存	四六〇
第二節 飯島町の考古学調査の歩み	四六一
一 飯島町の考古学研究	四六一
昭和三〇年代までの考古学研究	相次ぐ発掘調査
遺物の収集	
第三節 飯島町のあけぼのと生活の舞台	四六五
一 飯島地区西部	四六五
二 飯島地区中央部	四六六

一 食べ物の獲得と道具 四九六
狩猟と道具 漁労と道具

二 植物採集と道具 四九三
葉菜類・根茎類と石器 堅果類と石器

第三節 縄文人と土器 四九六

一 縄文人の台所 四九八

焼け石・蒸し焼き法 土器による食物の煮炊き 食物を煮る(深鉢形土器) 食物を盛

り付ける(浅鉢形土器) 液体を入れ注ぐ(注口土器) 物を貯蔵する(壺形土器) 特

殊な容器(有孔罅付土器) 土器を置く台(台付土器・器台) 小さな容器(ミニチュア土

器)

二 土器の製作と文様 五〇六

土器作り 土器の型式・様式 草創期の土器 早期の土器 前期の土器 中期の

土器 後期の土器 晩期の土器

第四節 縄文人の身なり 五〇七

一 編み物と衣類 五〇七

編み物の技術 縄文人の衣服 縄文人の履き物

二 縄文人の装い 五二〇

髪結い 縄文人と装身具

第五節

縄文人の住まい……………

五二

一 竪穴住居の建築と道具……………

五二

磨製石斧と砥石……………

二 構造と内部施設……………

五三

住居の形と規模……………

柱穴と小屋組み……………

住居内の炉……………

床を巡る周溝……………

住居の出入口と埋

甕……………
住居内の祭りの施設……………

第六節

縄文人の祈りと祭り……………

五六

一 自然への恐れと祭り……………

五六

二 祈りと祭りの道具……………

五七

女性を形どった土製品(土偶)……………

顔を形どった取っ手を持つ土器……………

住居の出入口に埋めら

れた土器(埋甕)……………

耳飾り……………

男根を象徴した石器(石棒)……………

儀仗の道具(石剣)……………

胸を

飾った珠(硬玉大珠)……………

祭りを盛り上げた土器(釣手土器)……………

祭りを盛り上げた顔料……………

三 埋葬の施設(土墳墓)……………

五九

死者の埋葬……………

早期の土墳墓……………

中期の土墳墓……………

第七節

時代の流れと飯島町……………

五二

一 一万年前ごろの飯島町……………

七、八千年前ごろの飯島町……………

四、五千年前ごろの飯島町……………

二、三千年前ごろの飯島町……………

第八節

縄文時代の遺跡と遺物……………

五五

一	飯島地区西部の遺跡と遺物	五四五
二	飯島地区中央部の遺跡と遺物	五七二
三	日曾利地区の遺跡と遺物	五八〇
四	田切地区の遺跡と遺物	五八一
五	本郷地区の遺跡と遺物	五九五
六	七久保地区の遺跡と遺物	六三
第四章 米を作った人々（弥生時代）		
第一節 新しい文化と米作り		
一	新しい文化の波及と定着	六六一
	大陸からの新しい文化 伊那盆地への新しい波 第二・第三の波と弥生文化の定着	六六一
二	住居と集落	六四四
	弥生時代の集落 弥生時代の住居	六四四
三	弥生土器	六六七
四	道具と生産	六六九
	農耕と道具 磨製石鏃と狩猟	六六九
五	弥生時代の墓	六七一
第二節 弥生時代の遺跡と遺物		六七三

一	飯島・田切地区西部の遺跡と遺物	六七三			
	うどん坂II遺跡	岩間城遺跡	高尾第一遺跡	高尾第二遺跡	町谷遺跡
二	本郷・日曾利・七久保地区の遺跡と遺物	六八一			
	若森社遺跡	日曾利山ノ田遺跡	その他の遺跡と遺物		
古代					

第一章 古代国家の成立と飯島町

第一節 大和政権と古墳

一 地方における古墳の築造

古墳の出現と分布 古墳と飯島町

二 古墳時代の地方の暮らし

大和政権と地方 住居とかまど 農耕地の拡大と道具 日常用具としての土師器と須

恵器

第二節 古墳時代の飯島町

飯島町の遺跡と遺物 堂前遺跡八号住居跡

第二章 奈良・平安時代の飯島町

第一節 古代の暮らし

一	古代の信濃国	六九三
	古くは科野国 信濃の国府 諏方国を分置	
二	古代の伊那郡	六九六
	伊那という地名 伊那の郡衙 伊那郡の郷名 古代の牧	
三	村人の暮らし	七〇〇
	住居と土器 農民の税 一千年前ごろの飯島町	
第二節 奈良・平安時代の遺跡と遺物		
一	飯島地区西部の遺跡と遺物	七〇四
	岩間城遺跡 山溝遺跡 その他の遺跡と遺物	
二	飯島地区中央部の遺跡と遺物	七〇六
	堂前遺跡 鳥居原小段遺跡 その他の遺跡と遺物	
三	田切地区の遺跡と遺物	七〇九
	太田ノ沢周辺の遺跡	
四	本郷地区の遺跡と遺物	七一九
	原林遺跡とその周辺 中山遺跡 寺平遺跡とその周辺 本郷中原遺跡 田中遺跡	
	北羽場遺跡 若森社遺跡 八幡遺跡 その他の遺跡と遺物	
五	七久保地区の遺跡と遺物	七二五
	上邸遺跡 千人塚遺跡 ヨキトギ場遺跡 その他の遺跡と遺物	

第三章 古代の道と文化……………七七

第一節 令制東山道の設置……………七七

一 古東山道と令制東山道……………七七

二 東山道を通った人々……………七九

第二節 東山道と飯島町……………七二

一 東山道研究の歩み……………七二

二 飯島町内の推定道筋……………七三

「下伊那史」による推定道筋 「飯島町」による推定道筋 「上伊那誌」による推定道筋

飯島町郷土研究会による推定道筋 飯島町東山道調査委員会による推定道筋 「長野県

史」による推定道筋

三 推定道筋付近の地名と遺跡……………七三

下段道筋の地名と遺跡 中段道筋の地名と遺跡 上段（一部中段）道筋の地名と遺跡

上段道筋の地名と遺跡

「原始・古代」参考文献……………七三

飯島町誌（上巻）自然、原始・古代編編集委員……………七三

飯島町誌（上巻）自然、原始・古代編執筆者……………七三

指導者、協力者……………七五

上卷 自然編

飯島町誌編纂刊行委員会規則	三七
飯島町誌編纂刊行委員会役員・事務局・組織図	三八
編集会議要項	四〇
あとがき	四三
付図 飯島町地質図	
飯島町遺跡分布図	